

【国際会議報告】

交通行動の分析に関する国際会議  
ネットワーク社会：交通行動の物理的・社会的側面

10th INTERNATIONAL CONFERENCE ON TRAVEL BEHAVIOUR RESEARCH  
MOVING THROUGH NETS: THE PHYSICAL AND SOCIAL DIMENSIONS OF TRAVEL

佐々木 邦明<sup>1</sup>

Kuniaki SASAKI

<sup>1</sup>正会員 博士(工学) 山梨大学 助教授

大学院医学工学総合研究部工学学域社会システム工学系  
(〒400-8511 山梨県甲府市武田4-3-11)

1. はじめに

交通行動の研究に、新しいアプローチや新しい分析対象が出現している中で、交通行動分析を共通テーマとするこの会議が、2003年8月10日～8月14日の日程で開催された。今回のサブタイトルはMoving through nets: The physical and social dimensions of travelであった。交通行動分析の対象が交通ネットワークから情報ネットワークへと拡大し、交通行動分析の社会的な役割の変化などを考慮して、このようなサブタイトルがつけられたものと考えられる。今回の会場はスイスのチューリヒから70kmほど離れたLuzernという街のSchweizer Hotelfachschule Luzernで行われた。おりしもヨーロッパ全土を熱波が襲っている中での開催で、普段は夏でも涼しい街であったため、エアコンは一部の部屋にしか装備されておらず、参加者はみな汗だくになりながら会議に参加することとなった。

2. 会議の概要

この会議は基本的には3年に一度開催され、今回で第10回目を迎えた。この会議が始まった当初は交通需要のモデリングが会議のタイトルであったが、途中から交通行動分析にタイトルが変更され、現在に至っている。今回の会議には15カ国から約150人が参加した。日本からは10名が参加していた。会議参加者の所属を見ると研究者だけでなく、交通系コンサルタントを中心とする実務者も多数参加していた。今回の開催幹事はチューリヒの連邦工科大学のAxhausen教授を中心とするグループである。

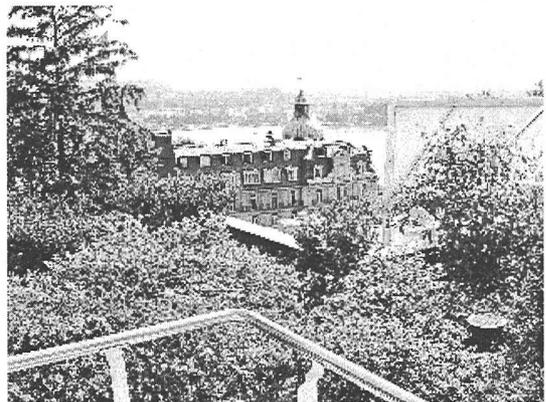


写真 - 1 会場から見たLucerneの湖とMt. Pilatus

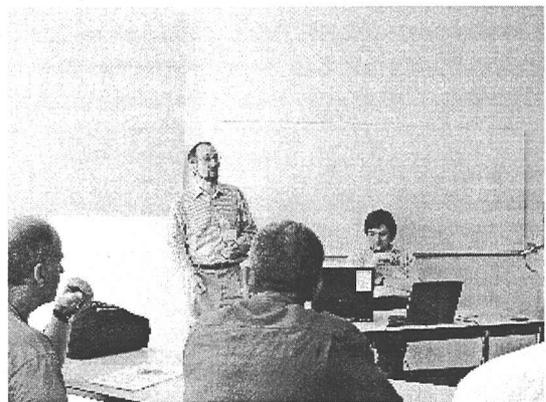


写真 - 2 ワークショップの様子

今回の会議は、基調講演と閉会の講演を含めて5日間開催された。その中では論文発表セッションより、ひとつの議題についてディスカッションを行う

ワークショップに多く時間がさかれていた。今回は筆者が知るここ数回のなかで、ワークショップへの時間配分割合が最も高かったように思われる。そのため、厳しいアブストラクト審査によって発表数を制限したと聞いている。一般セッションで発表された研究は65編。その他ワークショップのリソースペーパーなどを含めて計83編と、小数の議題を密度高く議論する構成となっていた。以下にワークショップのタイトルを列挙する。

- ・ 選択行動の計量経済モデリング
- ・ 行動のダイナミクスのモデル
- ・ 集団選択のモデル
- ・ 実験的調査手法
- ・ 計算テクニックと相互運用性
- ・ 交通行動データの DTD ( Document Type Definition)
- ・ 行動変容のきっかけ作りとサポート
- ・ 大規模モデルとマイクロシミュレーション
- ・ 物流のモデリング
- ・ 施策評価と選択モデル
- ・ 交通の利用機会と社会的排斥
- ・ 交通行動の可視化

前半と後半はそれぞれ平行で行われた。筆者はこれらのうち「選択行動の計量経済モデリング」および「施策評価と選択モデル」とモデリングに関連するワークショップに出席した。両ワークショップの概要は、最初に発表されたリソースペーパーで、これまでの発展と問題点が非常にうまくまとめられていて、そこをスタート地点として議論がかわされた。議論の内容は新たな視点や方向性を導出する試みも多くあったが、リソースペーパーで指摘された問題点の実務的な対処方法や、より基礎的な概念の統一なども行われていた。他のワークショップの様子はあまり詳しく聞き及んでいないが、聞いた範囲では同じような状況であったようである。

また、会議3日目には5種類のテクニカルツアーが設定されていた。筆者はそのうち「Mobility (世界最大数の会員をもつカーシェアリング組織)」のLucerne支所の見学に参加し、この組織のマーケティングディレクターから、組織の発足した理由、組織発展の秘訣、および実際の利用方法などについての説明を受けた。このほかにも交通博物館や、スイスの高速道路計画と建設現場の見学などが設定されていた。



写真 - 3 カーシェアリングの説明を聞く参加者

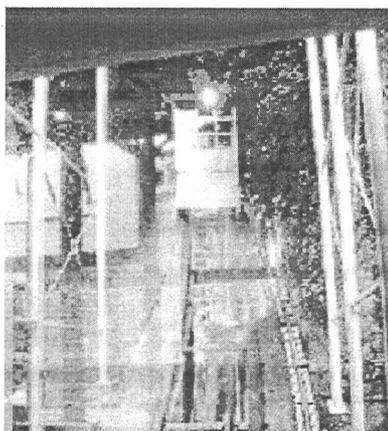


写真 - 4 会場にあった謎の短距離移動手段

### 3. おわりに

この会議はこれまで主に交通行動のモデル分析を中心とした会議であった。しかし、今回の会議に参加して、その方向性に変化が現れ、統計的モデリングとは異なるアプローチを用いた研究も多数の参加者を集めていた。今後この会議はどのような方向になっていくのであろうか？ 次回の開催国と決定した日本での3年後の会議（開催幹事：京都大学北村隆一先生）が非常に楽しみになっている。また、このように会議の方向性も変化しつつあることから、これまでこの会議にそれほど興味のなかった方も、次回はぜひ参加をご検討ください。

(2003.9.11 受付)